

成果指標				
成果指標	市内試掘箇所数			
指標設定の考え方	市内試掘箇所数			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標27年度
目 標	3	4	4	0
実 績	3	6	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	旧伊予市内で発掘をすると過去の伊予が見えてくる遺物が発見される時があり、この事は地域に夢とロマンを持たせるもので今後も必要と考える。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	文化財は国民の共有財産であることから、継続して開発行為における埋蔵文化財試掘の必要性を周知、理解を深めていかなければならない。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題